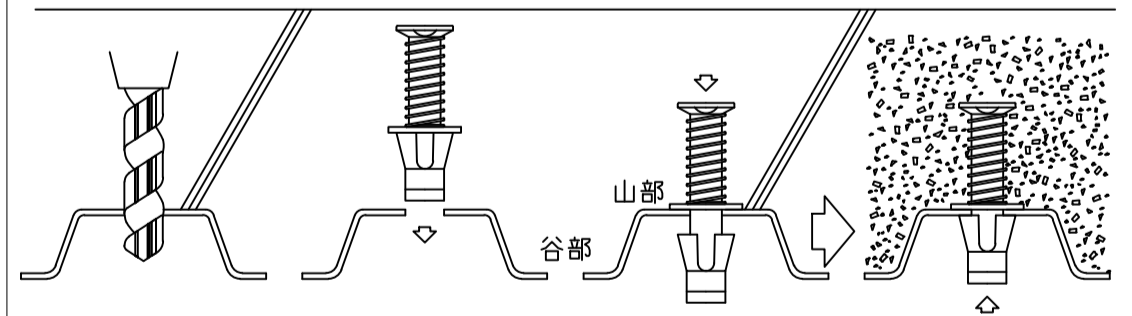


1	特記仕様書	-																																																										
1.4.5 接着剤	a.各所に用いる接着剤は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを含まないものとする。また接着剤に含まれる可塑剤は、フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性のものとする。ただし、設計図又は特記の指定によりエポキシ樹脂系接着剤を使用する場合は、これらの物質の使用量が最小限に抑えられたものとし、十分に枯らし期間を設けるなど改善措置を講ずる。		<table border="1"> <tr> <td>冷媒</td> <td>○断熱材被覆銅管</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>給水</td> <td>一般部分 ボイラー等 高温接続部分</td> <td>○水道用硬質塩化ビニルライニング銅管 ○銅及び銅合金の縦目無管</td> <td>SQP-VA(屋外はVD) L</td> </tr> <tr> <td>排水</td> <td></td> <td>○排水用硬質塩化ビニルライニング銅管</td> <td>DVLP</td> </tr> </table> <p>注1) 管及び管継手は、流体の用途及び最高使用圧力、最高使用温度に適合したものを使用する。</p>	冷媒	○断熱材被覆銅管			給水	一般部分 ボイラー等 高温接続部分	○水道用硬質塩化ビニルライニング銅管 ○銅及び銅合金の縦目無管	SQP-VA(屋外はVD) L	排水		○排水用硬質塩化ビニルライニング銅管	DVLP	2.2.13 ストレーナ 2.2.13.1 [付加] 水及び蒸気用	a.1形ストレーナ 呼び径65mm以上の1形ストレーナには、清掃時水抜き用の弁を設ける。又、ストレーナ形のストレーナを使用しても良い。 b.水口径のストレーナ 水配管で呼び径200A以上のストレーナは、ストレーナ形、床置バケット形とする。	14)合成スラブ構造用デッキプレートを使用した床スラブは、山部のスラブ厚が100mm未満であるため、配管の床スラブ貫通部防火措置工法を決定する場合は、防火措置工法のスラブ厚条件を確認し、条件に準ずる防火措置工法を使用する。 15)吐水口空間、排水口空間の設置位置図を作成し、配管工事が完了後、設置位置図に基づき吐水口空間、排水口空間が確認できる施工写真と自主検査記録書として監理者に提出する。 16)配管、配線の防火区画等の貫通部防火措置工法（国土交通省大臣認定工法）の施工場所がわかる位置図を作成し、配管・配線工事が完了後、貫通部防火措置工法の施工場所が認定通り施工できていることを確認できる施工写真を自主検査報告書として監理者に提出する。なお、貫通部防火措置工法は、貫通部の構造や配管種別、及び口径等に適合した工法を選定する。																																										
冷媒	○断熱材被覆銅管																																																											
給水	一般部分 ボイラー等 高温接続部分	○水道用硬質塩化ビニルライニング銅管 ○銅及び銅合金の縦目無管	SQP-VA(屋外はVD) L																																																									
排水		○排水用硬質塩化ビニルライニング銅管	DVLP																																																									
1.4.6 室内施工後の 室内空気質測定	a.測定の要否 ・行う ・行わない(建築工事で行う測定に協力する) 測定後、速やかに報告書を監理者に提出する。 b.実施時期 ・完成引渡し1か月前 ・別途工事の家具備品等の搬入前 ・別途工事の家具備品等の搬入後(測定費用 ・本工事 ・別途)		(衛生用) <table border="1"> <tr> <td>用途</td> <td>管材料</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>給水</td> <td>一般部分 ボイラー等 高温接続部分</td> <td>○水道用硬質塩化ビニルライニング銅管 ○水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>SQP-VA(屋外はVD) H1VP L</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○銅及び銅合金の縦目無管</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>L</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○水道用硬質塩化ビニルライニング銅管</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>SQP-VA</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○水道用硬質塩化ビニルライニング銅管</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>SQP-VD</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○供給事業者の指定による</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>SUS 304</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○架橋ポリエチレン管</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>DVLP</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○硬質ポリ塩化ビニル管</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>VP</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○硬質ポリ塩化ビニル管</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>VP</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○硬質ポリ塩化ビニル管(○非加硫ブチルゴム系 止水材巻付け ・水膨張性ゴム系止水材巻付け) ・つば付き溶融鉛めっき銅管 (H02177)</td> </tr> </table> <p>注1) 管及び管継手は、流体の用途及び最高使用圧力、最高使用温度に適合したものを使用する。</p>	用途	管材料	備考	給水	一般部分 ボイラー等 高温接続部分	○水道用硬質塩化ビニルライニング銅管 ○水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管			SQP-VA(屋外はVD) H1VP L			○銅及び銅合金の縦目無管			L			○水道用硬質塩化ビニルライニング銅管			SQP-VA			○水道用硬質塩化ビニルライニング銅管			SQP-VD			○供給事業者の指定による			SUS 304			○架橋ポリエチレン管			DVLP			○硬質ポリ塩化ビニル管			VP			○硬質ポリ塩化ビニル管			VP			○硬質ポリ塩化ビニル管(○非加硫ブチルゴム系 止水材巻付け ・水膨張性ゴム系止水材巻付け) ・つば付き溶融鉛めっき銅管 (H02177)	2.2.27 [付加] スリーブ	a.材質・規格等 ・設計図による ・下表による(設計図に記載がある場合を除く) 表 型枠に設ける配管用のスリーブの使用箇所と材料 使用箇所 材料 外壁貫通部(地上) ○つば付きステンレス鋼管 地下外壁(梁部とも)貫通部 *つば付き銅管 地中で水密性を要しない貫通部 *硬質ポリ塩化ビニル管 屋内一般部 *溶融鉛めっき鋼板製又は硬質ポリ塩化ビニル管 屋内外一般部(柱梁以外で開口補強) *紙製板枠(取り除く) 地下2層ビット、床下配管ビット内(水櫃を除く)、免震ビット *硬質ポリ塩化ビニル管 水櫃部分ほか水密性が必要な貫通部 ○硬質ポリ塩化ビニル管(○非加硫ブチルゴム系 止水材巻付け ・水膨張性ゴム系止水材巻付け) ・つば付き溶融鉛めっき銅管 (H02177)	17)ポンプ廻りの配管 ポンプ廻りの配管は、次にによる。 1)ポンプ吐出側の仕切弁の高さは床下1.2~1.5mとし、ポンプが複数の場合は高さを統一する。取付け高さが1.5mを超える場合は操作のための架台を設ける。 2)ポンプ吸込み側が負圧となる場合は次の配管とし、空気溜まりが生じないイ。吸込側の配管はポンプに向かって1/100以上の勾配とし、空気溜まりが生じないようにし、ポンプ吸込口径より大きい場合は、接続する管と吸込口の寸法をそろえる。 ロ。ポンプの吸込圧力が低下し、キャビテーション等の支障を来すことのないように、ポンプの配置及び配置を行う。 ハ。仕切弁は負圧とならない位置で弁軸が水平となるように設ける。 3)計器の取付け高さは床下1.5~1.8mとする。やむを得ずその高さに取付けられない場合は、45度傾斜形又は隔測形(導管のある形)等を使用して見やすいように取り付ける。
用途	管材料	備考																																																										
給水	一般部分 ボイラー等 高温接続部分	○水道用硬質塩化ビニルライニング銅管 ○水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管																																																										
		SQP-VA(屋外はVD) H1VP L																																																										
		○銅及び銅合金の縦目無管																																																										
		L																																																										
		○水道用硬質塩化ビニルライニング銅管																																																										
		SQP-VA																																																										
		○水道用硬質塩化ビニルライニング銅管																																																										
		SQP-VD																																																										
		○供給事業者の指定による																																																										
		SUS 304																																																										
		○架橋ポリエチレン管																																																										
		DVLP																																																										
		○硬質ポリ塩化ビニル管																																																										
		VP																																																										
		○硬質ポリ塩化ビニル管																																																										
		VP																																																										
		○硬質ポリ塩化ビニル管(○非加硫ブチルゴム系 止水材巻付け ・水膨張性ゴム系止水材巻付け) ・つば付き溶融鉛めっき銅管 (H02177)																																																										
1.4.7 改善措置	a.ホルムアルデヒド及びVOC等の室内濃度測定の結果、建築物の要求品質をクリアできていない物質がある場合は、発注者及び監理者と協議のうえ、指針値クリアを達成するまで連続的な換気運転をする。又は、ベークアウトにより又は、ホルムアルデヒド、VOC等を吸着又は除去する材料を用いるなどの方法により、適切な改善措置を講ずる。				2.2.27 [付加] スリーブ	17)ポンプ廻りの配管 ポンプ廻りの配管は、次にによる。 1)ポンプ吐出側の仕切弁の高さは床下1.2~1.5mとし、ポンプが複数の場合は高さを統一する。取付け高さが1.5mを超える場合は操作のための架台を設ける。 2)ポンプ吸込み側が負圧となる場合は次の配管とし、空気溜まりが生じないイ。吸込側の配管はポンプに向かって1/100以上の勾配とし、空気溜まりが生じないようにし、ポンプ吸込口径より大きい場合は、接続する管と吸込口の寸法をそろえる。 ロ。ポンプの吸込圧力が低下し、キャビテーション等の支障を来すことのないように、ポンプの配置及び配置を行う。 ハ。仕切弁は負圧とならない位置で弁軸が水平となるように設ける。 3)計器の取付け高さは床下1.5~1.8mとする。やむを得ずその高さに取付けられない場合は、45度傾斜形又は隔測形(導管のある形)等を使用して見やすいように取り付ける。																																																						
1.4.8 室内設備関連工事 におけるシックハ ウス対応	a.室内設備関連工事については、建築・設備工事の発注区分にかかわらず、相互調整により次のシックハウス対応を行う。 b.室内における配管類、配、機器等の塗料及び接着剤は、露出及び隠ぺい部分ともにホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを含まないものとする。また、接着剤に含まれる可塑剤は、フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性のものとする。やむを得ずこれらを含むものを使用する場合は、その使用量が最小限に抑えられたものとし、十分に枯らし期間を設け、換気するなどの措置をとる。				2.2.27 [付加] スリーブ	17)ポンプ廻りの配管 ポンプ廻りの配管は、次にによる。 1)ポンプ吐出側の仕切弁の高さは床下1.2~1.5mとし、ポンプが複数の場合は高さを統一する。取付け高さが1.5mを超える場合は操作のための架台を設ける。 2)ポンプ吸込み側が負圧となる場合は次の配管とし、空気溜まりが生じないイ。吸込側の配管はポンプに向かって1/100以上の勾配とし、空気溜まりが生じないようにし、ポンプ吸込口径より大きい場合は、接続する管と吸込口の寸法をそろえる。 ロ。ポンプの吸込圧力が低下し、キャビテーション等の支障を来すことのないように、ポンプの配置及び配置を行う。 ハ。仕切弁は負圧とならない位置で弁軸が水平となるように設ける。 3)計器の取付け高さは床下1.5~1.8mとする。やむを得ずその高さに取付けられない場合は、45度傾斜形又は隔測形(導管のある形)等を使用して見やすいように取り付ける。																																																						
第6節 インサート 1.6.1 材料	a.インサート及びアンカーの追補 1)インサートは、JIS B 1178による。 2)インサート全物は、鋼製又は鉄鋼製で錆止め処理を施したものとす。ただし、暗渠(床下ビット、トレンチ等)、多湿箇所、基礎免震層等ではステンレス製とする。 3)あと施工金属系アンカーボルトのボルト部は、JIS B 3101、JIS B 3112又はこれらと同等以上の品質を有するものとする。金属系アンカーボルトの定着部(スリーブ)は、JIS B 3101、JIS B 3123又はこれと同等以上の品質を有するものとする。 4)あと施工接着系アンカーボルトのボルト部は、JIS B 3101、JIS B 3112又はJIS B 4051による。固着剤は、エポキシ樹脂系、ポリエステル樹脂系又はセメント系とする。 5)腐食のおそれのある暗渠(床下ビット、トレンチ等)、多湿箇所、基礎免震層等を使用するアンカー全物は、上記によらずステンレス製(SUS304又はSUS316)とする。 b.アンカー全物の露出部は、錆止め処理を行う。				2.2.27 [付加] スリーブ	17)ポンプ廻りの配管 ポンプ廻りの配管は、次にによる。 1)ポンプ吐出側の仕切弁の高さは床下1.2~1.5mとし、ポンプが複数の場合は高さを統一する。取付け高さが1.5mを超える場合は操作のための架台を設ける。 2)ポンプ吸込み側が負圧となる場合は次の配管とし、空気溜まりが生じないイ。吸込側の配管はポンプに向かって1/100以上の勾配とし、空気溜まりが生じないようにし、ポンプ吸込口径より大きい場合は、接続する管と吸込口の寸法をそろえる。 ロ。ポンプの吸込圧力が低下し、キャビテーション等の支障を来すことのないように、ポンプの配置及び配置を行う。 ハ。仕切弁は負圧とならない位置で弁軸が水平となるように設ける。 3)計器の取付け高さは床下1.5~1.8mとする。やむを得ずその高さに取付けられない場合は、45度傾斜形又は隔測形(導管のある形)等を使用して見やすいように取り付ける。																																																						
1.6.2 あと施工アンカー	a.原則としてあと施工アンカーは使用しない。 b.使用する場合には、工事の着手に先立ち施工計画書を作成し、監理者の承認を受ける。耐震計算書と施工状況を照合し、自主検査記録書を作成し監理者に提出する。 c.あと施工アンカーの性能試験及び施工後確認試験は、監理者と協議する。 d.あと施工アンカーの施工管理には、工事内容に相応した施工の指導を行う施工管理技術者を置く。受注者は、日本建築あと施工アンカー協会の資格を有する者か、又はあと施工アンカーについて十分習熟し、かつ十分な技能及び経験を有する者が施工を行う。 e.あと施工アンカーの適用は、以下のとおりとする。 1)あと施工アンカーの選定は、日本建築センター「建築設備耐震設計・施工指針」2014年版、空気調和・衛生工学会「建築設備用あと施工アンカー SHASE-S 012」に準拠するとともに、日本建築あと施工アンカー協会(JOAA)の認証品を使用する。また、選定したあと施工アンカー製造者による実技講習会を開催し、受注者は使用するあと施工アンカーの製品知識と十分な技能を習得し施工する。また、許容引抜荷重の計算では、第一種、第二種重量コンクリートが使用される場合は、一割程度裕度を算定を行う。 2)あと施工金属拡張アンカーは、おねじ型(スリーブ打込み式、ウェッジ式)とする。 3)あと施工接着系アンカーの固着剤は、カプセル方式を原則とし、耐薬品性・耐熱性等の施工条件を考慮して選定する。また、接着系アンカーは配管、ダクト、機器等の天井吊り下げ用及び重量の大きい機器、配管等を支持する壁付ブラケットの引抜力の掛るボルトに使用してはならない。 4)両掛りとなるあと施工アンカー部分では、取り合い部分にシーリングを行い、止水処理を行う。 5)防水保護コンクリートへのあと施工アンカーは行わない。やむを得ずあと施工アンカーとする場合は、防水層、鉄筋、埋設配管類に対し相違影響がない旨の資料を作成し、監理者の承認を受ける。 6)あと施工アンカーは、梁底に打ち込むことを禁止する。 7)コンクリート基礎にあと施工アンカーを打ち込む場合は、事前にコンクリート基礎の配筋状態を確認し、あと施工アンカーが配筋に当たらないようにする。 8)そのほか、改修補修(第2編 第5章 インサート及びアンカー)に準拠して施工を行う。 9)上記原則以外のことを行う場合は、監理者と協議する。 f.あと施工アンカーを使用する場所における埋込み配管等の探査の範囲及び方法は場所ごとに監理者と協議する。 g.重量機器類のアンカーは、先付アンカーを原則とする。 h.設備工事の共通支持部材用のアンカーボルトやインサートは、原則建築工事に依頼する。 i.配管、ダクト等の吊り用共通支持架台等は、インサートを原則とする。 j.合成スラブ構造用デッキプレートにインサート及びあと施工アンカーを取付ける場合は、原則下図のようにデッキプレートの割付図を確認しデッキプレートの山部に取付ける。				2.2.27 [付加] スリーブ	17)ポンプ廻りの配管 ポンプ廻りの配管は、次にによる。 1)ポンプ吐出側の仕切弁の高さは床下1.2~1.5mとし、ポンプが複数の場合は高さを統一する。取付け高さが1.5mを超える場合は操作のための架台を設ける。 2)ポンプ吸込み側が負圧となる場合は次の配管とし、空気溜まりが生じないイ。吸込側の配管はポンプに向かって1/100以上の勾配とし、空気溜まりが生じないようにし、ポンプ吸込口径より大きい場合は、接続する管と吸込口の寸法をそろえる。 ロ。ポンプの吸込圧力が低下し、キャビテーション等の支障を来すことのないように、ポンプの配置及び配置を行う。 ハ。仕切弁は負圧とならない位置で弁軸が水平となるように設ける。 3)計器の取付け高さは床下1.5~1.8mとする。やむを得ずその高さに取付けられない場合は、45度傾斜形又は隔測形(導管のある形)等を使用して見やすいように取り付ける。																																																						
第2章 配管工事																																																												
第1節 配管材料																																																												
2.1.2 管及び継手	a.管材 (空調用) <table border="1"> <tr> <td>用途</td> <td>管材料</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>冷水</td> <td>2階以上 ○配管用炭素鋼鋼管 (白管)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>温水</td> <td>1階以下 ○圧力配管用炭素鋼鋼管 (白管)</td> <td>STP6 370 Sch40</td> </tr> <tr> <td>冷却水</td> <td>○配管用炭素鋼鋼管 (白管)</td> <td></td> </tr> </table>	用途	管材料	備考	冷水	2階以上 ○配管用炭素鋼鋼管 (白管)		温水	1階以下 ○圧力配管用炭素鋼鋼管 (白管)	STP6 370 Sch40	冷却水	○配管用炭素鋼鋼管 (白管)																																																
用途	管材料	備考																																																										
冷水	2階以上 ○配管用炭素鋼鋼管 (白管)																																																											
温水	1階以下 ○圧力配管用炭素鋼鋼管 (白管)	STP6 370 Sch40																																																										
冷却水	○配管用炭素鋼鋼管 (白管)																																																											
第2章 配管工事																																																												
2.2.7 伸縮管継手	a.伸縮管継手の種別 *ペローズ形(・単式・複式) ・スリーブ形(・単式・複式)																																																											
2.2.8 防振継手	a.防振継手の種別 ・ペローズ形(ステンレス製) ・合成ゴム製 ・設計図による b.ゴム製球形防振継手 ゴム製球形防振継手を用いる場合は、SHASE-S008-2020(ゴム製吸気吸収管継手)に示される性能を満足するほか、次にによる。 (反力):数値が明示できる。 (耐圧性能):最高使用圧力の4倍以上の破壊圧力を有する。 (加圧・減圧繰返し性能):破壊に至る回数を明示できる。(なお標準テスト回数は、加圧給水ポンプ用:20回、その他:10万回とする。) (ゴム材料):JIS K6354水道用ゴムの規定による引張試験、圧縮永久ひずみ試験、老化試験の数値を明示できる。なお、安全確認のため、必要に応じて追加試験の実施を可能とする。 ビードワイヤー方式のゴム製球形防振継手は、最高使用圧力1MPa未満の条件で使用できるものとする。	[付加]																																																										
2.2.9 フレキシブルジョイント	a.フレキシブルジョイントの種別 ○ペローズ形(ステンレス製) ・合成ゴム製(水用) ・設計図による																																																											
2.2.12 絶縁継手	a.設置箇所及び仕様 1)埋設配管で建築物内に入り出す銅管は、土壌マクロセル腐食を防止するために建築内に入ったところで絶縁継手を設置する。	[付加]																																																										
第2章 配管工事																																																												
第1節 配管材料																																																												
2.1.2 管及び継手	a.管材 (空調用) <table border="1"> <tr> <td>用途</td> <td>管材料</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>冷水</td> <td>2階以上 ○配管用炭素鋼鋼管 (白管)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>温水</td> <td>1階以下 ○圧力配管用炭素鋼鋼管 (白管)</td> <td>STP6 370 Sch40</td> </tr> <tr> <td>冷却水</td> <td>○配管用炭素鋼鋼管 (白管)</td> <td></td> </tr> </table>	用途	管材料	備考	冷水	2階以上 ○配管用炭素鋼鋼管 (白管)		温水	1階以下 ○圧力配管用炭素鋼鋼管 (白管)	STP6 370 Sch40	冷却水	○配管用炭素鋼鋼管 (白管)																																																
用途	管材料	備考																																																										
冷水	2階以上 ○配管用炭素鋼鋼管 (白管)																																																											
温水	1階以下 ○圧力配管用炭素鋼鋼管 (白管)	STP6 370 Sch40																																																										
冷却水	○配管用炭素鋼鋼管 (白管)																																																											
第2章 配管工事																																																												



# 日建設計

26\_02 検閲者:高辻 量

26都道府県会館  
自動制御設備工事

(通し番号 5)  
1 - 5

No. J - 140058 - Q





< 工事概要 >

- ・セキュリティシステム用の下記機器を更新する。  
 ACC 3台  
 SMS 1台  
 SDS 1台  
 UPS本体 3台  
 UPSバッテリー 1台

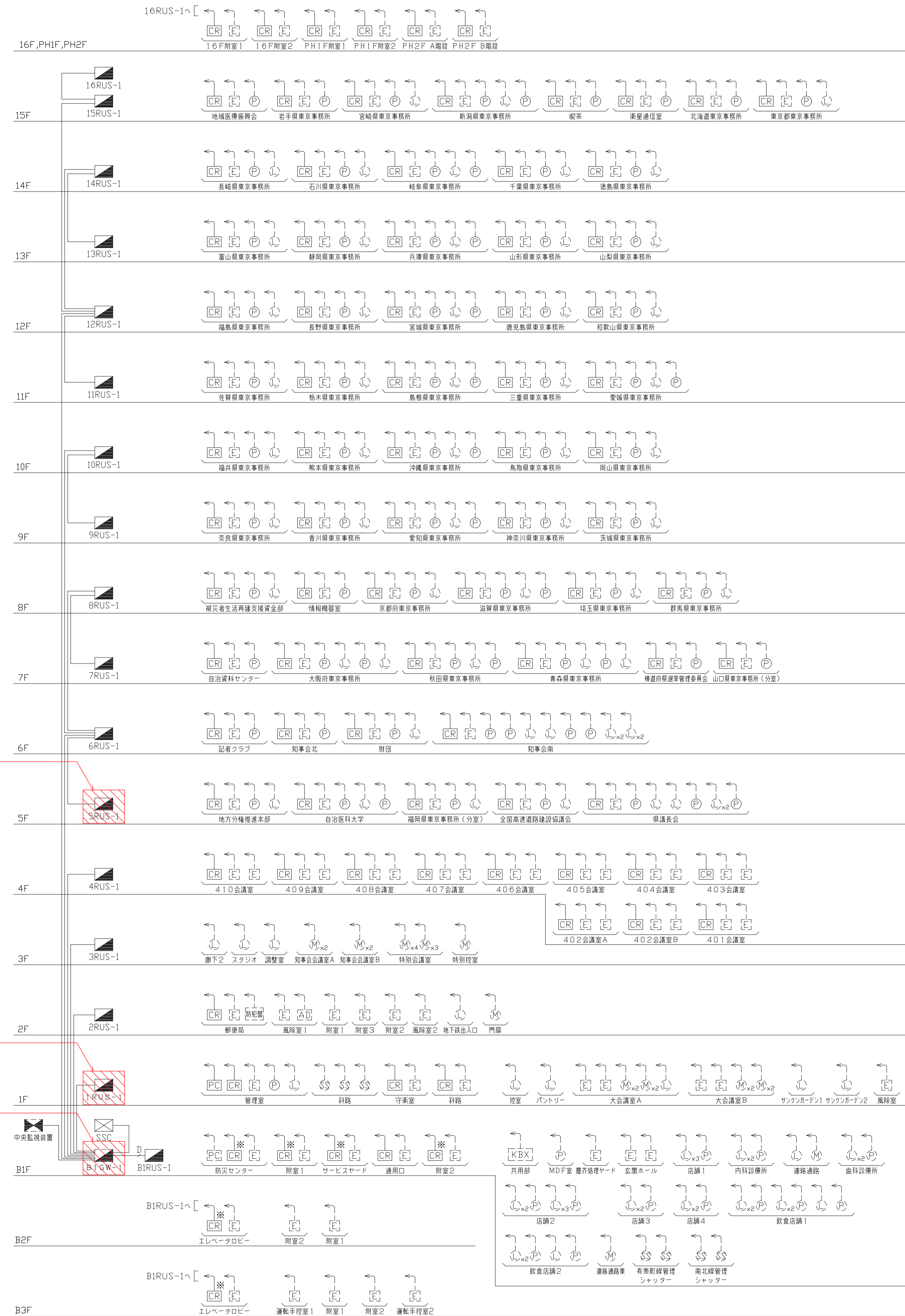
< 工事条件 >

- ・可能な限りビルシステム。テナントの影響が少ない期間に更新を行う。
- ・詳細については発注者との協議による。

UPSバッテリー x1台 更新

ACC x1台 更新  
UPS x1台 更新

ACC x2台 更新  
SMS x1台 更新  
SDS x1台 更新  
UPS x2台 更新



記号凡例

- 中央監視装置
- システム制御盤
- リモート盤 (RUS)
- CR : カードリーダー
- PC : PC
- P : パッシブセンサ
- E : 電気錠 (既存利用)
- S : スイッチストライク (既存利用)
- M : マグネットセンサ (既存利用)
- A : 自動ドア制御盤 (既存利用)

配線凡例

- A, B : LANケーブル Cat 5
- A, C : CVV2 3C
- A : KPEVS0.9-3P
- A : AE0.9-200P
- その他 : LANケーブル Cat 5

< 凡例 >

- 工事対象範囲 (撤去・更新・養生範囲)

着工	
竣工	
監理	
施工	

日建設計

26.02.

校図者: 高辻 謙

26都道府県会館  
自動制御設備工事

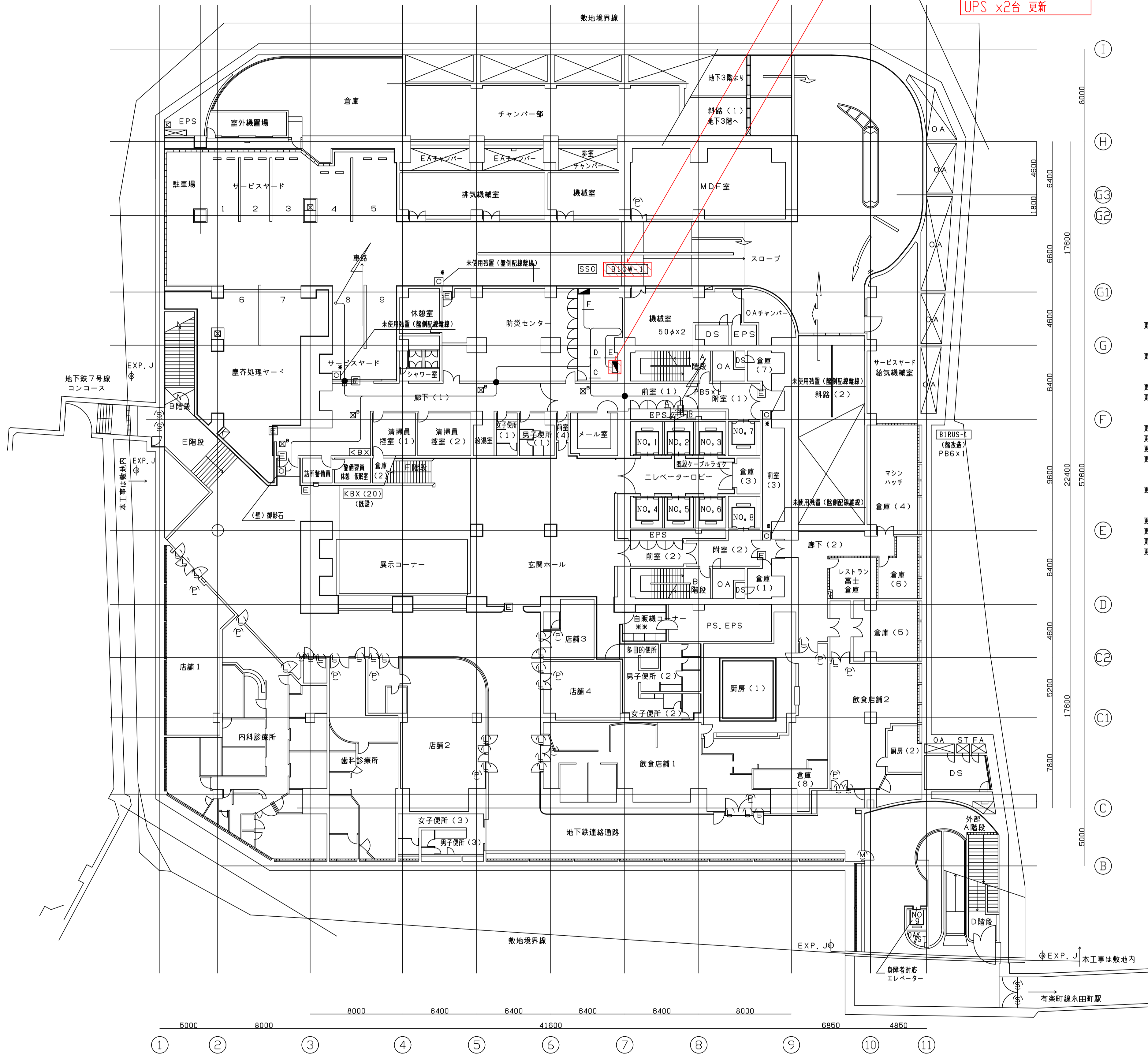
26施設管理・防犯設備部品交換工事  
工事概要・系統図

A1: -  
A3: -

機 (通し番号 8 )  
2-1

No. J-140058-Q

ACC x2台 更新  
SMS x1台 更新  
SDS x1台 更新  
UPS x2台 更新



記号	名称	備考
□	非接触ICカードリーダ(高機能)	更新/新設
Ⓜ	電気錠	既設再利用
Ⓐ	自動ドア	既設再利用
Ⓟ	パッシブセンサ	更新/新設
Ⓛ	スイッチストライク	既設再利用
Ⓜ	マグネットスイッチ	既設再利用
Ⓢ	シャッター	既設再利用
ⓀⓃ	鍵管理ボックス	既設再利用
●	防火区画貫通処理	既設再利用
ⓧ	点検口(455x455, アルミ板)	新設
ⓧ	点検口(455x455, 天井ボード)	新設

配線凡例		
-A-		
更新 EM-LANケーブル	x 4 (E25)	幹線x4
-B-		
更新 EM-KPEES0, 75φ-30P	x 1 (E51)	SSC
-C-		
更新 EM-KPEES0, 75φ-30P	x 1 (コロガシ)	SSC
更新 EM-LANケーブル	x 4 (コロガシ)	幹線x4
-D-		
更新 EM-KPEES0, 75φ-30P	x 1 (コロガシ)	SSC
更新 EM-LANケーブル	x 4 (コロガシ)	幹線x4
更新 EM-LANケーブル	x 2 (コロガシ)	カードリーダx2
更新 EM3, 5φ	- 3C x 2 (コロガシ)	カードリーダx2
-E-		
更新 EM-LANケーブル	x 5 (コロガシ)	幹線x5
-F-		
更新 EM-LANケーブル	x 1 (コロガシ)	幹線x1
更新 EM-KPEES0, 75φ-30P	x 1 (コロガシ)	BIRUS
更新 EM-LANケーブル	x 2 (コロガシ)	カードリーダx2
更新 EM3, 5φ	- 3C x 2 (コロガシ)	カードリーダx2

注記1. 実線を更新、点線を既存再利用とする。  
注記2. 廊下天井内は吊ボルト(既存再利用可)にフックを設置し、フック上にケーブル敷設とする。

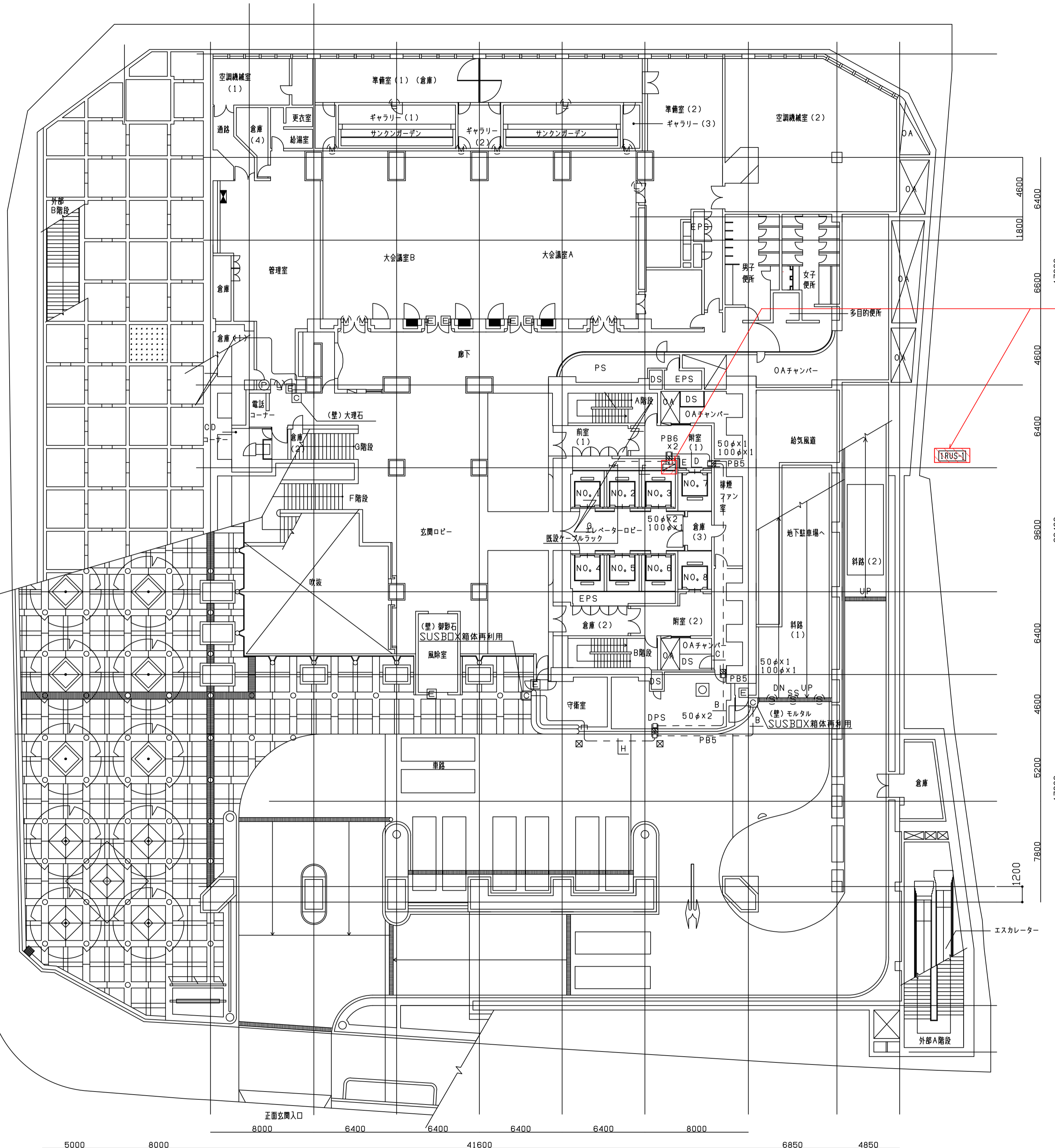
記号凡例		プルボックスサイズ凡例	
平面図記号	内容	PB1	150φ x 100
---	天井内ケーブル配線	PB2	200φ x 200
---	露出配管	PB3	300φ x 300
---	ケーブルラック配線	PB4	400φ x 300
---	フリーアクセス内配線	PB5	500φ x 400
ⓧ(WP)	プルボックス (WPは防水仕様)	PB6	600φ x 400
50φx1	はつり箇所 (数字は貫通孔径を示す)		

<特記>  
・天井内はケーブルコロガシとし、カードリーダ、壁への立り下はメタルモールを使用する。  
・ケーブルラック上はケーブル敷設とする。  
・フリーアクセス内はケーブル敷設とする。

地下1階平面図

<凡例>  
■■■■ 工事対象範囲

着工	
竣工	
監理	
施工	



記号	名称	備考
□	非接触ICカードリーダ(高機能)	更新/新設
⌚	電気錠	既設再利用
A	自動ドア	既設再利用
P	パッシブセンサ	更新/新設
L	スイッチストライク	既設再利用
M	マグネットスイッチ	既設再利用
S	シャッター	既設再利用
KBX	鍵管理ボックス	既設再利用
●	防火区画貫通処理	既設再利用
⊠	点検口(455x455、アルミ板)	新設
⊞	点検口(455x455、天井ボード)	新設

ACC x1台 更新  
UPS x1台 更新

配線凡例		
-A-		
既設 EM-LANケーブル	x 1 (MMA) / (コロガシ)	幹線
-B-		
更新 EM-LANケーブル	x 1 (E19)	カードリーダ
更新 EM-CE3, 5口	- 3C x 1 (E25)	カードリーダ電源
-C-		
更新 EM-LANケーブル	x 2 (E19)	カードリーダx2
更新 EM-CE3, 5口	- 3C x 2 (E39)	カードリーダ電源x2
-D-		
更新 EM-LANケーブル	x 2 (コロガシ)	カードリーダx2
更新 EM-CE3, 5口	- 3C x 2 (コロガシ)	カードリーダ電源x2
-E-		
更新 EM-LANケーブル	x 3 (E25)	カードリーダx3
更新 EM-CE3, 5口	- 3C x 3 (E51)	カードリーダ電源x3
既設 EM-LANケーブル	x 1 (E19)	幹線
-F-		
更新 EM-LANケーブル	x 1 (E19)	幹線
-G-		
更新 EM-LANケーブル	x 3 (ラック)	幹線x3
更新 EM-LANケーブル	x 1 (ラック)	幹線
既設 EM-LANケーブル	x 1 (ラック)	幹線
既設 EM-LANケーブル	x 1 (ラック)	幹線
-H-		
更新 EM-LANケーブル	x 1 (コロガシ)	カードリーダ
更新 EM-CE3, 5口	- 3C x 1 (コロガシ)	カードリーダ電源

注記1. 実線を更新、点線を既設再利用とする。  
注記2. 廊下天井内は吊ボルト(既設再利用可)にフックを設置し、フック上にケーブル敷設とする。  
注記3. 1Fのカードリーダ取付の壁で大理石箇所(x1か所)

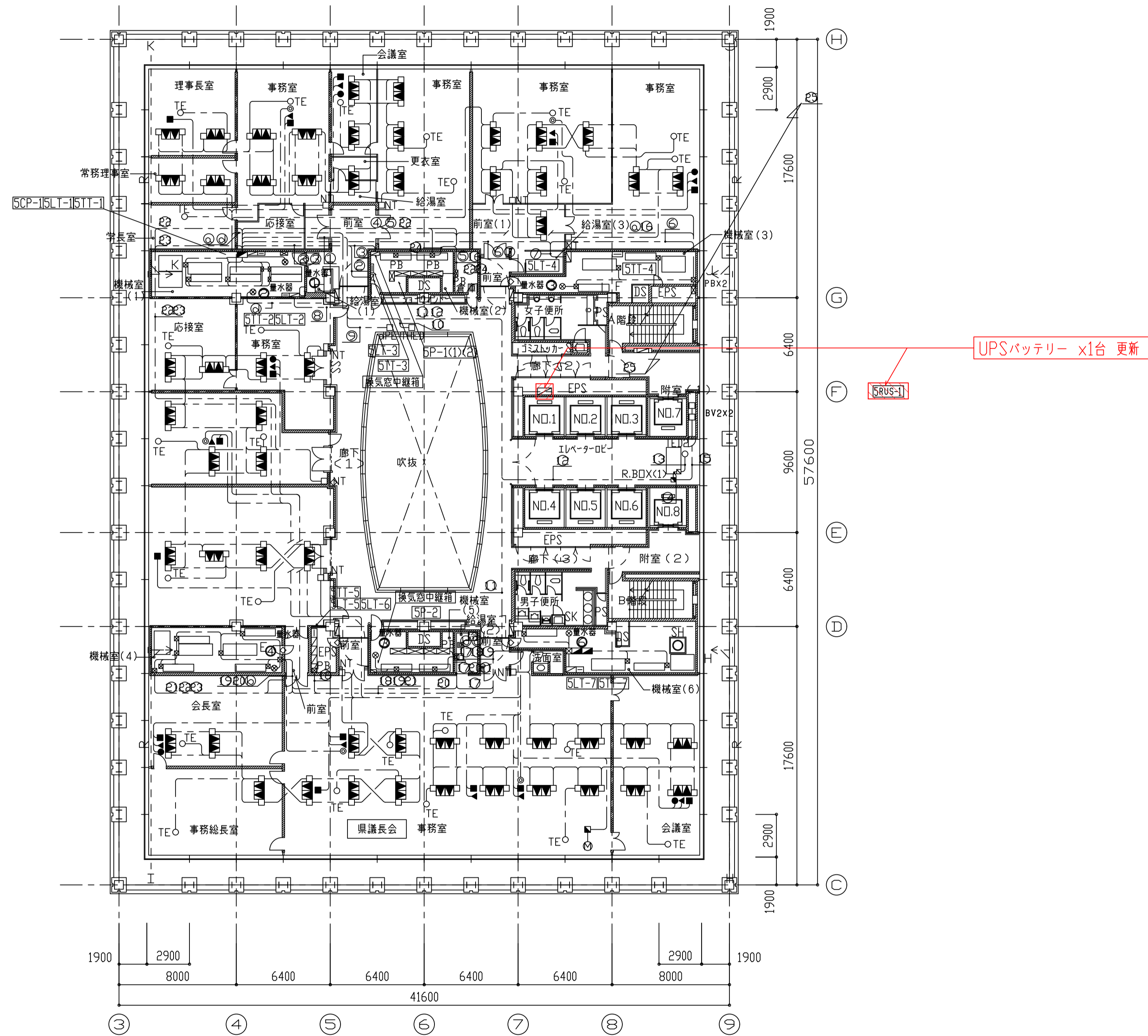
記号凡例		ブロックサイズ凡例	
平面図記号	内容	PB1	1500 x 100
---	天井内ケーブル配線	PB2	2000 x 200
---	露出配管	PB3	3000 x 300
---	ケーブルラック配線	PB4	4000 x 300
---	フリーアクセス内配線	PB5	5000 x 400
⊞ (WP)	ブロックボックス (WPは防水仕様)	PB6	6000 x 400
50φx1	はつり箇所 (数字は貫通孔径を示す)	・(WP)は防水仕様とする。	

<特記>  
・天井内はケーブルコロガシとし、カードリーダ、壁への立下りはメタルモールを使用する。  
・ケーブルラック上はケーブル配線とする。  
・フリーアクセス内はケーブル配線とする。

<凡例>  
■■■■ 工事対象範囲

1階平面図

審工	
竣工	
監理	
施工	



<凡例>  
5RUS-1 ... 工事対象範囲

着工	
竣工	
監理	
施工	

日建設計

26都道府県会館  
 自動制御設備工事

機 (通し番号 11)  
 2-4

26.02.

検図者：高辻 豊

26施設管理・防犯設備部品交換工事  
 5階平面図

A1:1/200  
 A3:1/400

No. J-140058-Q